

|||||
巡 検 報 告
|||||

生 口 島 巡 検

高 山 直 子

生口島、という島を、それまで知っていた者がいたであろうか。瀬戸田町、といえはいくらか場所の見当はつく。広島県豊田郡瀬戸田町、三原港からフェリーで35分、近く開通される瀬戸大橋の一部で隣りの因島とつながる、瀬戸内海に浮かぶ生口島の西部4分の3と高根島を有する町である。町の基幹産業は農業、主に柑橘栽培であるが、他に観光業、港の近くにある造船工場なども島の生活を大きく支えている。典型的な瀬戸内海の小島、といったところであるが、三原市、尾道市という大きな都市とフェリーの直航便があり、比較的本土とのつながりは深い。

今回の巡検の事前研究について少し触れると、今までの巡検が宿泊巡検であっても事前に何時間かを使って行先地の概要や巡検の目的を知り、あとは全員が既定の同じテーマで見学・調査したものからレポートにまとめる、というものであったのに対し、今回は大きなテーマを5つに分け、各自がどのテーマを選ぶかによってグループ分けし、週一回約2ヶ月かけて詳しく調べるという本格的なものになった。このことは、来年に控えた卒業論文というものを意識においた上で地理学におけるフィールド調査法を学ぶ、ということが目的の伏線としてあったのである。今まで巡検というと半分は旅行気分であったのと打ってかわった状況に、卒業論文という言葉の登場も手伝って我々の緊張度はいっきに上昇した。

さて準備期間はあっという間に過ぎ、ついに7月14日、我々は三原港の待合い所に集合した。これから4日間（正確には3日）の不安を片隅に、フェリーの窓から見える東京とは全く異なる景観に心を踊らせつつ、島の玄関口である港に到着、そこからそのまま歩いて15分程の、新しく建てられた町民会館に着いて、その日は町長さんより町の概観、農協の方から農業についてお話をうかがった。一人一人に町に関する詳しいパンフレットが配られ、事前にまだぼんやりとしていた瀬戸田町の姿がはっきりしてきた。町民会館について

だが、これは町長さんの「瀬戸田町を文化的な面でアピールしていきたい」という主旨に基づいて建てられた、モダンな、外観・内装共にすばらしい建てもので、その主旨は隣りに立つベルカント・ホールや庭のモダン・アートによく表されていた。しかし町の日指す方向と実際の島での生活とが必ずしもびったり一致しているのではない、という感がなきにしもあらずであった。

翌日15日は午前中に役場で資料調査、バスで生口島一周のあと、午後にはいよいよテーマ別に掘り下げて実際に各分野に携わる人々からの聞き取り調査を行った。テーマは農業、漁業、観光産業、架橋問題、離島問題の5つで、それぞれ得るところの多い調査ができたようだ。私の行った農業班では専業農業の若手の方が2人、車で私達を案内しながら親切に質問等に答えて下さり、早生温州を御馳走になった上夏みかんなど沢山の物をおみやげにもらった私達は恐縮しつつもすっかり感激してしまった。皆この日の調査によって、島への印象を深めたように思われる。またこの日の夜はベルカント・ホールでコンサートを鑑賞したりその後のレセプションに参加したりと、思い出深い時間を過ごすことができた。

その翌日は午前中に青年団と婦人会の方からお話をうかがい、より生活に近いレベルで島についての知識を深めることができた。その後は午後の出発までわずかではあったが自由行動となり、各自耕山寺を訪ねたり買い物をして楽しんだ。

夕刻生口島を後にして、私達は広島に到着した。広島ではその夜に生口島巡検についてのまとめを兼ねた報告会を行い、翌日は自由行動でめいめいが考えるところにより広島周辺を散策、ということで解散し、こうして3泊4日の巡検も、長かったようで短いうちに終わったのであった。一言私の感想を述べると、事前に明確な問題意識を持つことの意義と、現地での調査がいかに大切であるかということの両方を実感した旅でもあった。

（7月14日 栗原教官指導）